



わがごとプロジェクト



西粟倉小学校だより

No. 7 令和7年11月11日（火）

子どもにとっての実りの季節

実りの秋とは少し時期がずれるのですが、子どもたちの成長が一番よく見て取れるのがこの11月から12月にかけての時期となります。4月からスタートした様々な教育活動が効果的に働いて、向上的変容が見られるようになるのが、この時期なのです。

勉強が苦手だった子が、意欲的に授業参加をするようになったり、授業中に発表ができなかった子が、自分から挙手して発言をするようになったり、自分に自信がなくて消極的だった子が、いろいろな係に立候補したり、声が小さかった子が、はつらつとした表情で挨拶をしたり・・・。こんな成長が、随所で見られるのがうれしいです。

もちろん、これからも成長が見られる場面が多々あると思います。それを楽しみにしています。

目は離さないように

ただし、目は離さないようにしなければなりません。すべての教育活動の中で、子どもが伸びていくのは、活動を子どもに委ねたときです。委ねることと放任することは違います。委ねるけれども、しっかり子どもを見る。これが大切です。

何か悩みがあるのかもしれません。友達はできるのに、自分にはできないことでつらい思いをしているかもしれません。友達に自身の気持ちを分かってもらえずに、悶々としているかもしれません。自分でやりきった達成感がもてず、なんとなくやる気が出ないかもしれません。こういったことは、なかなか自分から口に出すことはありません。だからこそ、周囲の人が、それらを察知してあげないといけないのでした。

おかしいなと思ったら、まずは、「大丈夫？」 「何か困ってる？」と声をかけてやる必要があります。

自分で乗り越えたと思えるように

声をかけて何か問題があれば、できればそれを子どもが自分の力で乗り越えたと思えるようにしてあげると、子どもは自信をもちます。子どもの困り感はしっかり聞いてやった上で、どうすれば解決するかを、まずは、子ども自身に考えてもらいます。解決策が出てこなければ、いくつか方法を提示し、子どもに選ばせるようにします。自分で決めて、自分がやったからこそ解決できたと感じとらせることが、次の課題解決への意欲につながります。

修学旅行に行ってきました

6年生は10月23日（木）～24日（金）にかけて、修学旅行に行ってきました。行先は京都・奈良方面です。金閣寺、銀閣寺、東映太秦映画村、東大寺、奈良公園、法隆寺と、歴史探訪の旅でした。行く先々で、発見あり、驚きあり、笑いありの連続でした。

その中で感じた6年生の力。

1つめは、知識を吸収する力です。とにかく、ガイドさんの説明をよくメモします。もちろん、説明が始まると、しんとなって話を聞きます。知識を吸収しようとする意欲がさすがでした。

2つめは、話し合う力。レクリエーションがうまくいかないときも、改善策をみんなで話し合います。そして、新たなルールをつくって、出し物を楽しみます。

この2つの力を目の当たりにし、6年生の成長ぶりを感じずにはいられませんでした。本当に楽しい旅になりました。



校内陸上記録会にて

10月28日（火）に、高学年の陸上記録会が行われました。100m走と60mハードル走は全員が記録を測定しました。その後、高跳び、幅跳び、ボール投げの内、自分が選択した種目の記録を測定しました。どの子も自己ベストを狙って頑張りました。

この記録会でも素晴らしい子どもの姿を見ることができました。

1つ目は、思うように記録が出なかった子どもが、真剣に悔しがっていた姿でした。それだけ陸上に熱中できていた証拠です。それだけではありません。しばらくは悔しくてしゃがみこんでいましたが、そこから気持ちを切り替えて、まだ、試技をしている友達を大きな声で応援し始めました。この姿にすごく感動しました。

2つ目は、高跳びのバーをうまく飛び越せた子どもに、たくさんの子がハイタッチをして祝福をしていた姿でした。男女関係なく、誰に対しても称賛できるって素晴らしいことです。ハイタッチをされた子どもも、思わぬ行為に最初は戸惑っていましたが、そのうち、みんなからの称賛に笑顔を返していました。こういった、関わり合いがもてる集団には、心理的安全性があります。こういう仲間がいるからこそ、自分に挑戦したり、自分の力を発揮したりできるのです。

個人の記録が伸びただけではなく、このような姿が見られたことをしっかり褒めました。

